国語科・道徳・特別活動とのつながりを意識した総合的な学習の時間のカリキュラム開発についての研究

藤上　真弓

A Study on the Development of Integrated Curriculum for the Period of Integrated Study:
The inclusion of the components of Japanese language, moral education and special activities

FUJIKAMI Mayumi
（Received January 6, 2016）

キーワード：カリキュラム開発、単元デザイン、授業デザイン、学びのつながり、生き抜く術

はじめに

特別活動である修学旅行や集団宿泊の準備や下調べを、総合的な学習の時間の授業時数に入れ、それらの行事が終了と同時に、総合的な学習の時間の学びも終了を迎えるという実践もある。しかし、残念ながら、それらが、総合的な学習の時間の学びで求められる協同的な学びや探究的な学び、自己の生き方を考えることができる学びが保障されているものばかりとは言い難い。

「小学校学習指導要領解説総則編」（文部科学省、2008）には、「総合的な学習の時間においてその趣旨を踏まえると同時に、特別活動の趣旨をも踏まえ、体験活動を実施した場合に特別活動の代替を認めるものであって、特別活動において体験活動を実施したことをもって総合的な学習の時間の代替を認めるものではない。また、総合的な学習の時間において体験活動を行ったことのみをもって特別活動の代替を認めるものでもなく、望ましい人間関係の形成や公共の精神の育成といった特別活動の趣旨を踏まえることは言うまでもない。」（p. 45）とある。それにもかかわらず、平成14年から完全実施（小学校）となった総合的な学習の時間において、カリキュラム開発に力を注いでいた期間を過ぎた今、課題を感じながらも、カリキュラムの見直しを図るエネルギーや見通しをもつことができにくいのが現状である。各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動が、それぞれ、本来の役割を果たすための打開策を見いだす必要がある。

１．「つなぐ」を意識したカリキュラム開発の必要性

「小学校学習指導要領道徳編」（文部科学省、2008）では、「集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動などの道徳性をはぐくむための体験活動と道徳の時間の時期や内容との関連を考慮し、道徳的価値の一層の自覚を深めるなどの工夫を図ることも大切である」（pp. 71～72）、「小学校学習指導要領解説総則編」（文部科学省、2008）では、「集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動などの体験を通して児童の内面に根ざした道徳性の育成が図られるよう配慮しなくてはならない」（p. 23）と示され、道徳教育や道徳の時間において体験活動との関連を図る重要性について述べられている。

また、「小学校学習指導要領解説道徳編」（文部科学省、2008）では、「道徳の時間は、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動などで学習した道徳的諸価値を、全体にわたって人間としての在り方や生き方という視点からとらえなおし、自分のものとして発展させていこうとする時間」（p. 30）と示されている。特別活動、総合的な学習の時間、道徳は、いずれも「生き方」にかかわる内容を含み、子どもが、現代社会を未来に向けて生き抜く術を身に付けるために、関連付けることが大切である。

奈須（2011）は、「総合に固有の特質として、暮らしにかかわる答えのない問いを自分自身の問いとして

引き受けて考え抜くということをあげることができる」（p. 44）と述べている。また、奈須（2011）は、学ぶことや生きることについて、「『より納得のいく私をいまよりも先の時間にほんの少しでもつくろうとする』という営み」、「『答えなき問いを引き受け、問い続ける』。私は子どもたちを、このある意味とても辛くしんどい、しかし常に未来に希望のもてる生き方を、力強く貫き通せる人間に育てたいのです。」（p. 113）と述べている。総合的な学習の時間の学びは、道徳において「内面性に根ざす」「自分のものとして発展」させる子どもの姿につなぐことができるのである。総合的な学習の時間の学びによって導き出された「自分なりの応え」は、道徳的実践意欲と態度の育成にもつながり、より具体化・実践化に向かうであろう。

さらに、奈須（2011）は、「教科は抽象や一般や普遍をめざすけれど、生活というのは、具体や特殊や個別をめざす。」（p. 185）と述べている。実生活では、置かれた立場や状況が変われば、支えとしてきた道徳的価値が揺らいだり、異なる道徳的価値との葛藤が生まれたりすることは多々ある。より客観的で、より状況に応じた「自分なりの応え」を導き出すためには、今を共に生きる仲間と課題について語り合い、つながっていくことが必要となる。そのためにも、国語科の学び方との関連を図ることも重要である。

２．研究の目的と方法

筆者[1)]は、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動が、各領域独自の役割を果たすと同時に、深く結び付き、一人の人間としての子どもの育ちを保障するカリキュラム開発を行いたいと考えた。その考えのもと、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を「つなぐ」カリキュラム開発を行った。

また、カリキュラム開発を授業づくりのレベルから行いたいと考え、子どもが、授業の中で活用する知識・技能、見方・考え方、学び方を計画に明記した。そして、学びの事実から子どもが創り出す「つながり」を見取り、「つながり」を創出する可能性を探り、計画レベルの「『仮』キュラム」にとどまらず、実証カリキュラムとして蓄積し、見直しの方向性を探りたいと考えた。授業研究の際には、羅生門的接近2）を行い、授業評価シートに、参観者が見取った「つながり」の記述欄を設け、授業者の意図と子どもの姿との整合性や授業者が見逃した「つながり」を把握した。

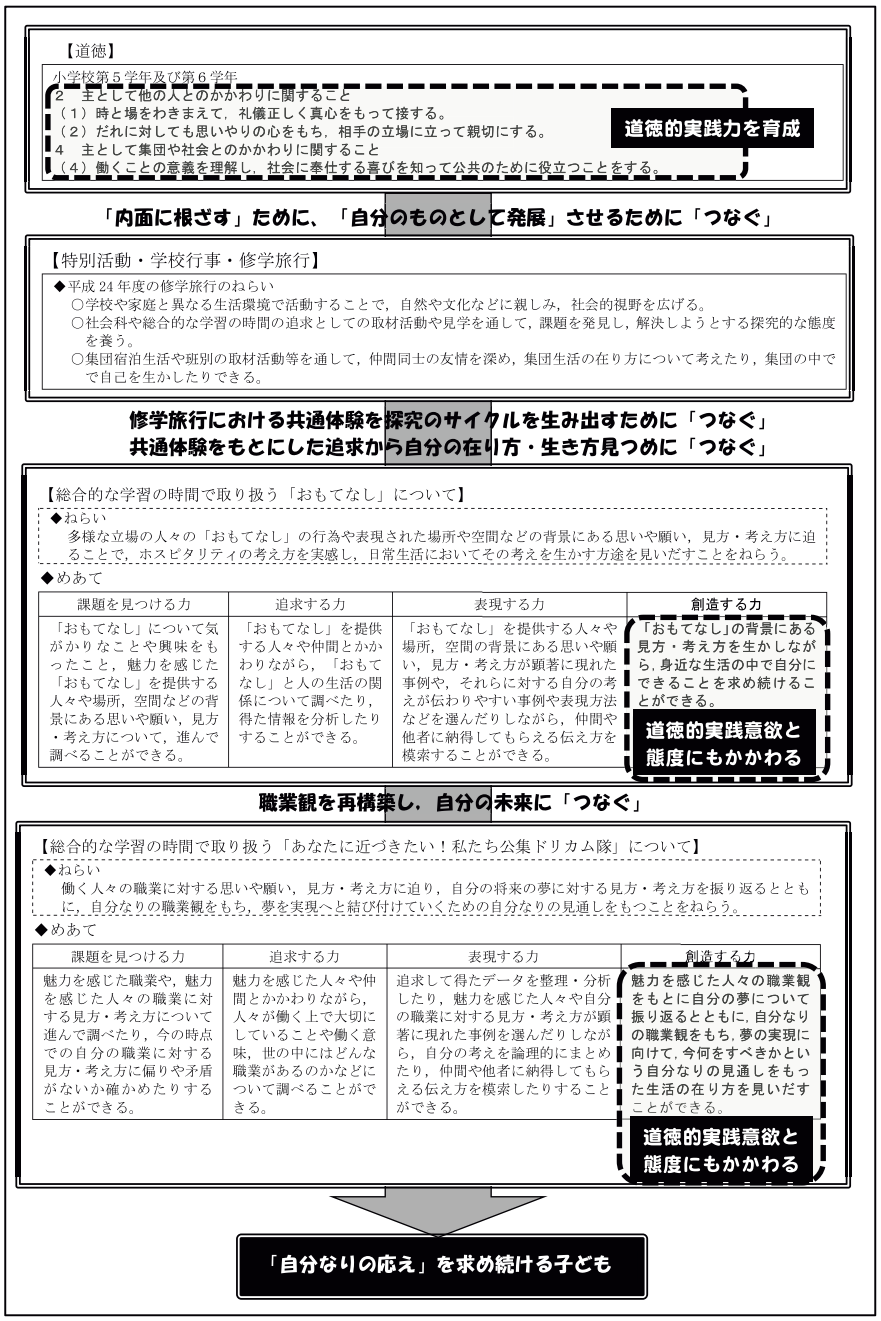


図１　「自分なりの応え」を求め続ける子どもを育てるカリキュラム開発例

３．「自分なりの応え」を求め続ける子どもを育成するカリキュラム開発の実際

３－１　カリキュラム開発例

「働く」をテーマに掲げ、道徳の時間に自覚や理解を深めた道徳的価値をもとに、これまでの経験だけで課題に対して判断するには物足りず、「働く人々は、皆資料の人物のような職業観をもっているのか」「私のよく行く店はどうか」等、「自分なりの応え」を求め続ける子どもを育てたいと考えた。図１は、そのカリキュラム開発例である。

３－２　「おもてなし」［第６学年］（総合的な学習の時間）の単元観

以下は、「おもてなし」（総合的な学習の時間）の単元の過程や単元末に目指した子どもの姿である。

○「おもてなし」が、立場や年齢、性別に関係なく人々の日常生活に潤いや癒しを与えることや、提供する側と受ける側とのコミュニケーションの潤滑油ともなることにも気付いていく。
○ホスピタリティは特別な場所や空間に存在するのではなく、日常のあらゆる場面で何気なく行われている行為や仕草に現れていることや、自分自身も「おもてなし」を創出できる一員であることに気付いていく。
○より積極的に身近な人々が気持ちよく生活するために自分にできることを行っていこうとすることができる。

３－３　今もつ「おもてなし」観の自覚を促す【総合的な学習の時間】

表１は、追求前の自分の「おもてなし」観について自覚を促す過程における計画案である。

表１　今もつ「おもてなし」観の自覚を促す過程の計画案

学習活動・学習内容	設定する主な言語活動	活用する知識・技能、見方・考え方
○　「おもてなし」の意味に目を向ける。 ・「おもてなし」の多様性	・「おもてなし」という言葉から思い浮かぶ人・物・出来事をイメージマップに記述する。	・経験してきた出来事やそれをもとに身に付けてきた「おもてなし」に対する思いや願い、見方・考え方 ・イメージマップに表す　・因果関係を考える
○　班で「おもてなし」について語り合う。 ・自他の「おもてなし」についてのとらえ	・班で、「おもてなし」についてのイメージマップをつくる。	・関連付ける
○　「おもてなし」とは、どのようなものなのか、語り合う。 ・「おもてなし」が人に与える影響への着目 ・「おもてなし」の背景にあるものへの着目	・全体で「おもてなし」から思い付くものについて、語り合い、挙がったものをキーワード化する。	・関連付ける ・分類する ・キーワード化する
	・語り合いをもとに「『おもてなし』とは、ズバリ！□である」とその根拠を記述する。	・誰のどのような意見に影響を受けたか、見つめる ・納得できたことや問題点を見いだす ・絵や図、文章に表す　・ナンバリングする ・キーワード化する　　など

３－３－１　「おもてなし」に対するイメージマップをかく

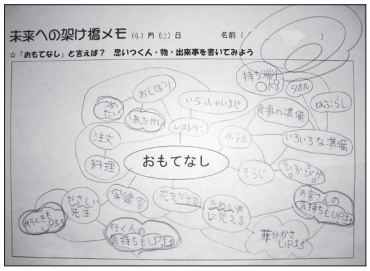


図２　Ａ児のイメージマップ

イメージマップに記述された言葉の中から、「おもてなし」によって生み出される心の動きに関するものを赤ペンで囲んだり、線を引いたりした。そうすることで、「おもてなし」によってもたらされる人々の感情に目を向けることができるようにした。図２は、Ａ児のイメージマップである。Ａ児は、ホテルでの「おもてなし」により「お客さんの気持ちもup」、養護教諭の「やさしさ」が「行く気もup」「行く人の気持ちもup」等と記述していた。Ａ児は、この活動の中で、「因果関係を考える」学び方を活用し、もてなす側の行為や創り出す空間等による客側の気持ちの変容に目を向けていることが分かる。

３－３－２　班でイメージマップを作成する

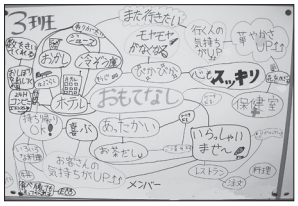


図３　Ａ児の班のイメージマップ

次時は、班で「おもてなし」についてのイメージマップを作成した。そうすることで、一人では気付くことができなかった「おもてなし」に対する思いや願い、見方・考え方にふれることができるようにした。

図３のＡ児の班のイメージマップを見ると、語り合う中で、より多くの具体的な「おもてなし」の行為や創り出される空間等が挙げられたことが分かる。「また行きたい」という記述からは、リピーターを生む「おもてなし」に着目したことが分かる。また、「モヤモヤがなくなる・心がスッキリする」という記述からは、もてなされる側が、日常のストレスから解放されたいという思いや願いをもつ場合があることにも着目したことも分かる。

３－３－３　全体で語り合った後に、自分の「おもてなし」観について整理する

全体での語り合い後、追求前の「おもてなし」に対する「自分なりの応え」とその根拠を記述させた。

図４はＢ児、図５はＡ児のワークシートである。Ａ児とＢ児は、考えを見える化する表現方法を活用できた。例えば、国語科の説明文で学んだ、抽象的なキーワードにすることは、自分の結論を伝えるためには有効だが、「例えば」と具体で説明するとより考えが伝わりやすくなることを意識できている。さらに、文章だけでなく絵や図で表し、読み手とイメージを共有できるように工夫している。それらを見ると、「おもてなし」が生み出す因果関係に着目していることが分かる。Ｂ児は、負の因果関係にも着目し、「おもてなしやる気度０％」と割合で表している。２人は、もてなす側ともてなされる側の双方向な関係に目が向いているが、「おもてなし」が社会に与える影響には目が向いていないことが分かる。他の子どもも同様に、そのことには目が向いていなかった。

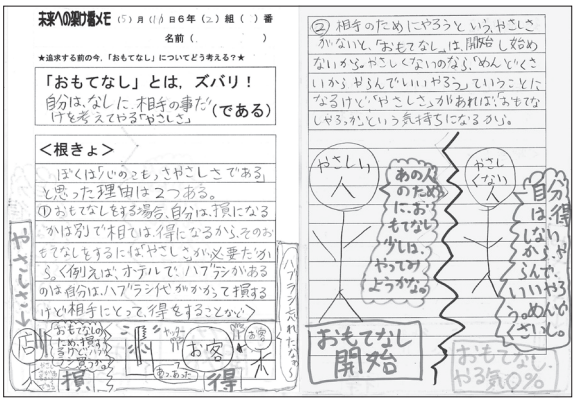


図４　Ｂ児の最初の「おもてなし」観

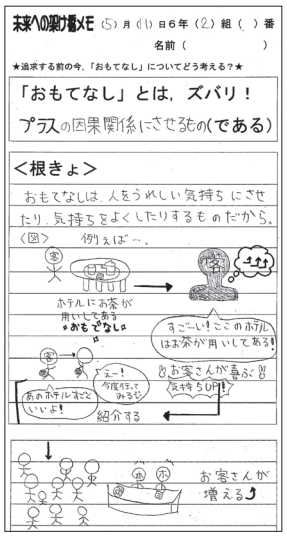


図５　Ａ児の最初の「おもてなし」観

３－４　働くということ（道徳）　資料「三方よし」４－（４）勤労・奉仕

表２は、「おもてなし」の心や行為が「社会」に与える影響にも着目させるための授業計画案である。

表２　「おもてなし」の心や行為が「社会」に与える影響にも着目させるための授業計画案

学習活動・学習内容	設定する主な言語活動	活用する知識・技能、見方・考え方
○　近江商人が働く上で大切にした３つのキーワードについて予想する。 ・近江商人の職業観の予想	・近江商人が働く上で大切にしてきた３つのキーワードを予想する ・班で、３つのキーワードを絞り込む	・経験やそれをもとに身に付けてきた「働くこと」に対する思いや願い、見方・考え方 ・キーワード化する
○　「三方よし」の意味を考える。 ・働くことの意味や価値	・「三方よし」の具体的な場面や状況等について考える	・立場や視点を変えて検討する ・推論する　　・具体例を挙げる
○　「三方よし」についての自分なりのとらえを見つめる。 ・働くことと自分とのつながり	・「三方よし」を「おもてなし」と関連付けて、自分の言葉で説明する	・関連付ける　　・因果関係をみる ・たとえる　　など

３－４－１　「三方」とは何か予想し、語り合う

まず、図７のワークシートを用い、近江商人が働く上で大切にしたキーワードを予想させた。そして、それをもとに班で語り合わせ、ボードに整理させた。図６の記述を見ると、「三方よし」の「自分よし」「相手よし」につながる視点はもったが、前時と同様に、「世間よし」には目が向いていないことが分かる。他の班も同様であった。

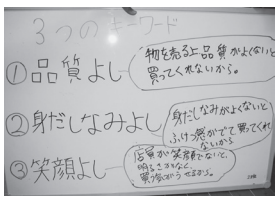


図６　ボード

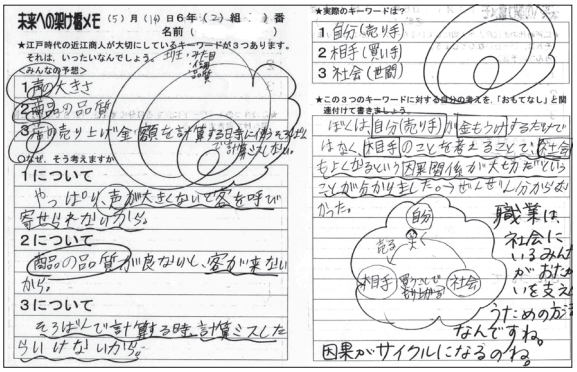


図７　思考・判断の過程が見える化されたＣ児のワークシート

３－４－２　「三方よし」の意味を考える

子どもたちに「三方よし」について伝え、その意味について推論させると、以下のような考えを語った。

・私は、客と店員の関係しか考えていなかったけど、よく考えたら、店員の人も、別の場面では客になる場合もあるし、１つの仕事だけで、世の中が成り立つわけではないということが見えてきました。
・「社会よし」ということは、当たり前だけど、もうけがあっても「オレオレ詐欺」はいけないという意味ですよね。
・ぼくは、つまり、誰かを陥れたり、悲しんだりするような働き方ではだめだということではないかと思います。　　など

上記のような発言が続き、子どもたちは、自分なりに解釈したことを全体の場で発表し合う中で、「三方よし」の具体的な場面や状況も共有し、道徳的価値を一般化できた。

３－４－３　「三方よし」を自分なりにとらえ直す

語り合い後には、再び図７のワークシートを用い、「三方よし」を自分なりにとらえ直す時間を確保した。

表３　語り合い後の「三方よし」に対する「自分なりの応え」

Ｄ児	売り手が買い手のことを考えれば、世間がよくなる。相手のことを思うと、「おもてなし」の力がアップする。色々なことがアップデートする。
Ｅ児	社会の中にいる一人ひとりが、うまく色々なことを支えれば、社会はうまく回る
Ｆ児	「おもてなし」＝気前だと私は考えた。おまけ賞品を付けると買ってくれて、売り手も潤い、買い手は喜び、世間は潤う。

表３の記述を見ると、子どもたちの「おもてなし」観や職業観に、「社会よし」という新たな視点が付け加わるとともに、自分なりの言葉で「三方よし」に対する考えを整理できていることが分かる。Ｅ児のように、働くことは人と人とが支え合う仕組みというとらえにまで達した子どももいた。

３－５　ディズニーリゾートの「おもてなし」に迫る（総合的な学習の時間）

表４は、プレ学習として、ディズニーリゾートの「おもてなし」に迫る過程の計画案である。

表４　ディズニーリゾートの「おもてなし」に迫る過程の計画案

学習活動・学習内容	設定する主な言語活動	活用する知識・技能、見方・考え方
○　ディズニーリゾートの「おもてなし」の行為や表現された場所や空間などの背景にある思いや願い、見方・考え方を予想する。 ・ディズニーリゾートのミッションの予想 ・「おもてなし」を創出する人々の思いや願い、見方・考え方などの予想	・ディズニーリゾートのミッションを予想する。	・推論する　・キーワード化する　など
	・ディズニーリゾートのミッションを予想したことをもとに、班で語り合い、分析する。	・分類する　・関連付ける　・対比する ・因果関係をみる　・優先順位を決める ・絵や図に表す　・キーワード化する
	・ディズニーリゾートのミッションについての班の分析をもとに、全体で語り合う。	・比較する　・関連付ける　・たとえる ・ナンバリングしながら説明する
	・語り合いをもとに、最終的なディズニーリゾートのミッションに対する自分の考えとその根拠を記述する。	・誰のどんな意見に影響を受けたか、見つめる ・納得できたことや問題点を見いだす ・絵や図、文章に表す　・キーワード化する ・ナンバリングしながら説明する
○　ディズニーリゾートの「おもてなし」の背景にある思いや願い、見方・考え方を知る。 ・ディズニーリゾートのミッションの意味	・ディズニーリゾートのキャストの「おもてなし」の行為やミッションの背景にある思いや願い、見方・考え方について、語り合う。	・比較する　・関連付ける　・たとえる ・ナンバリングしながら説明する
	・ディズニーリゾートのミッションに対する自分の考えとその根拠を記述する。	・納得できたことや疑問点を見いだす ・絵や図、文章に表す　など

３－５－１　ディズニーリゾートのミッションを予想する

班で検討する前に、付箋へのキーワードの記述の仕方について指導した。付箋を用いた検討では、付箋に記述された言葉の抽象度が異なり、「分類する」「キーワードにまとめる」という活動が円滑に行われない場合がある。また、抽象度が揃っていても、あまりに抽象度が高い言葉であると、一人ひとりの子どもの思いや願い、見方・考え方が顕在化せず、深まりのない検討になってしまう場合もある。

そこで、ある子どものこれまでのワークシートの記述を取り上げ、「キャラクター」の前に「魅力ある」、「笑顔」の前に「まぶしい」と付けると、記述した子どもの考えがイメージしやすくなることを全体で共有した。そして、例えば、「キャラクター」や「笑顔」等、挙げたキーワードが果たす役割や影響に目を向けて、深い議論が展開されるようにした。また、遊園地独自の「おもてなし」にも目を向けてほしいと考えた。

３－５－２　班でディズニーリゾートのミッションについて検討する

これまでに遊園地に行った経験や修学旅行で行く遊園地のパンフレットもとに、自分なりの考えをもとに、ディズニーリゾートのキャストのスローガンについての班の予想を表現物にまとめた。そして、各班に自分たちの予想についてプレゼンテーションさせた。班や全体で検討して変容した自分の考えを見つめるために、振り返りの時間を設定した。Ｂ児とＥ児は、ワークシートに、表５のように予想を記述していた。

表５　Ｂ児とＥ児のワークシートの記述

Ｂ児	ディズニーリゾートのキャストのスローガンは、「にこにこ　ピカピカ　わっくわく　お客様への思いやり」だと、ぼくは考える。それは、リズム感がよく、覚えやすいからである。「キャストの「にこにこ」は、ゲストの「にこにこ」につながる。「ピカピカ」は、清潔、誰にとっても感じがよいにつながる。「わっくわく」は、相手がわっくわくになってほしいという願いを込めた。「お客様への思いやり」は、重大ナンバー１。お客様のことを考えないと赤字。このつながりが大事。
Ｅ児	ディズニーリゾートのキャストのスローガンは、「危険０・モタモタ０・ゴミも０・キャラクターの魅力度 100%」だと、ぼくは考える。アトラクション等に危険があると、客が乗らなくなるから。客を待たせると、その分の時間が客にとっての損になるから。いつでもどこでも何があってもきれいじゃなければ、気持ちがダウンする。100%じゃないと相手は喜ばない。

Ｂ児の「リズム感がよく覚えやすい」という記述から、スローガンをキャスト全体が共有することで、客が満足する「おもてなし」が提供されることに目が向いたと見取った。それは、「『お客様への思いやり』

は、重大ナンバー１」という記述からも分かる。H児の「客を待たせると、その分の時間が客にとっての損になるから」という記述からは、客が時間を創り出して足を運ぶ意味に目が向いたことが分かる。また、B児同様に、スローガンの表現にリズム感をもたせ、覚えやすいものにしている。

３－５－３　ディズニーリゾートで働く人々の「おもてなし」観、職業観に迫る

ディズニーリゾートで働く人々が大切にしているキーワード、働く上での喜び等を伝える資料を作成し、人々の「おもてなし」観や職業観等をくみ取らせた。そして、ディズニーリゾートでモットーは、「すべてのゲストにハピネスを」であること、「①安全性②礼儀正しさ③ショー④効率」（ディズニーリゾート・キャンパス）の４点が行動基準の視点であることを伝え、その意味について推論させて語り合う場を設定した。語り合い後には、提示された情報を吟味・解釈したり、仲間の考えに影響を受けた部分や疑問点を見つめたりするために、振り返りの時間を確保した。表６は、A児とG児の振り返りカードの記述である。

表６　　A児とG児の振り返りカード記述

A児	私の考えとは全く違ったが、ミッションである「すべてのゲストにハピネスを」にはとても納得した。私が、もしキャストでも、ゲストに絶対に「ハッピー」で「幸せ」で帰ってほしいし、「夢の世界」のイメージが崩れてしまうのも、とてもいやだから。
G児	ちょっと難しそうだけど、やらなくてはいけないことだから、きつくても、この基準は守らなければいけないんだなと思います。ぼくは、「効率」に似ている「モタモタ０」という基準を予想していました。だけど、「効率」は、ぼくが考えていたことをまとめた言葉だし、覚えやすいから、「効率」の方がよいと思いました。

表７を見て分かるように、A児もG児も、与えられた情報を鵜呑みにせず、「自分だったら」と立場を置き換えて考えたり、自分の考えとの共通点を探り、納得できる点を見いだしたりすることができた。

３－６　加賀屋の「おもてなし」に迫る（道徳）　資料「加賀屋の『おもてなし』」４－（４）勤労・奉仕

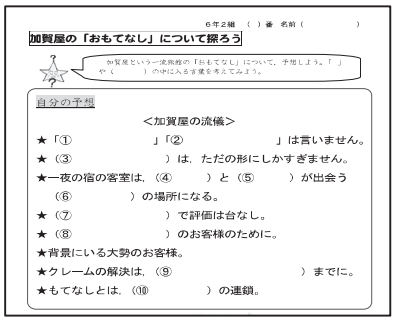
表７は、加賀屋の「おもてなし」に迫る過程の計画案である。

表７　加賀屋の「おもてなし」に迫る過程の計画案

学習活動・学習内容	設定する主な言語活動	活用する知識・技能、見方・考え方
○　加賀屋の「おもてなし」の考え方について予想する。 ・加賀屋の「おもてなし」観の予想	・加賀屋の「おもてなし」の考え方について予想する。	・経験や身に付けた「おもてなし」に対する思いや願い、見方・考え方 ・近江商人の職業観　　・推論する
○　加賀屋の「おもてなし」の考え方について知り、その意味について考える。 ・加賀屋の「おもてなし」に込められた意味	・加賀屋の「おもてなし」が表現された具体的な場面や状況について考える。	・立場や視点を変えて検討する　・推論する ・具体例を挙げる　　・因果関係をみる
○　加賀屋の「おもてなし」の考え方についての自分なりのとらえを見つめる。 ・自分の「おもてなし」観、職業観の変容の自覚化 ・働くことと自分とのつながり	・加賀屋の「おもてなし」に対する自分の考えや、今の時点の「おもてなし」観について記述する。	・関連付ける　　・因果関係をみる ・たとえる　　など

子どもたちに、これまでの経験や道徳、総合的な学習の時間における追求をもとにして、加賀屋の「おもてなし」の考え方について推論させた。図８は、加賀屋の流儀を予想する際に用いたワークシートであり、以下は、その空欄に入る言葉である。

①ありません　②できません　③マニュアル　④人生　⑤人生　⑥一期一会
⑦たった一分で　⑧たった一人の　⑨チェックアウト　⑩幸せ


6年2組　（　）番　名前（　　）

加賀屋の「おもてなし」について探ろう

加賀屋というー流旅館の「おもてなし」について、予想しよう。「　」や（　　）の中に入る言葉を考えてみよう。

自分の予想

＜加賀屋の流儀＞

★「①　　」「②　　」は言いません。
★（③　　）は，ただの形にしかすぎません。
★一夜の宿の客室は，（④　　）と（⑤　　）が出会う（⑥　　）の場所になる。
★（⑦　　）で評価は台なし。
★（⑧　　）のお客様のために。
★背景にいる大勢のお客様。
★クレームの解決は，（⑨　　）までに。
★もてなしとは，（⑩　　）の連鎖。

図８　用いたワークシート

これらを子どもたちに伝えた後には、実際の具体的な場面をイメージさせて解釈する場を設定した。子どもたちは、表８のように語った。これらの発言から、子どもたちは、これまで学んで得た見方・考え方、情報、経験等と関連付けて、加賀屋の「おもてなし」の考え方をとらえようとしていることが分かる。それとともに、プロ意識の高さを具現化した行為に込められた意味を追求したいという思いをもったことが分かる。

表８　加賀屋の流儀に対する子どもたちの意見の一部

ぼくは、「ありません」「できません」ということはたくさんあるはずなのに、無理難題を言ってくるような客に実際にどのように対応しているのだろうと思います。
ぼくは、旅館を人生と人生が出会う場とは考えたことがありませんでした。そこまで考えているから、「たった一人のお客様のために」という考えにつながるのだと思います。そんな旅館に泊まってみたいです。
確かにクレームの処理を帰りまでにしないと、客は、「二度と泊まるもんか」という気持ちのままで、帰宅するようになりますよね。そうすると、旅館にとってはよくない噂も広まり、マイナスの因果関係が動き出すと、私は考えます。
「幸せ」という言葉は、ディズニーリゾートのミッションにも使われていましたよね。私は、もてなす側のプロ中のプロは、お客様が幸せな気分になることをいつも願いながら、「おもてなし」をしているのだと感じました。

３－７　ホテルオークラ東京の「おもてなし」に迫る（道徳）資料「『おもてなし』と言葉」２－（１）（２）

表９は、ホテルオークラ東京の「おもてなし」に迫る過程の計画案である。

表９　ホテルオークラ東京の「おもてなし」に迫る過程の計画案

学習活動・学習内容	設定する主な言語活動	活用する知識・技能、見方・考え方
○　ホテルオークラ東京の「おもてなし」の考え方について予想する。 ・ホテルオークラ東京の「おもてなし」に込められた意味の予想	・ホテルオークラ東京の「おもてなし」の言葉に込められた意味について予想する。	・経験やそれをもとに身に付けてきた「おもてなし」に対する思いや願い、見方・考え方 ・推論する
○　ホテルオークラ東京のスタッフの言葉遣いをもとに、「おもてなし」に対する思いや願い、見方・考え方を知る。 ・もてなす側の内発的動機と外発的動機	・スタッフの状況に応じた言葉遣いから汲み取れる「おもてなし」に対する思いや願い、見方・考え方について語り合う。	・これまでの分析で得た見方・考え方 ・比較する　　・関連付ける ・たとえる ・ナンバリングしながら説明する
○　ホテルオークラ東京の「おもてなし」の考え方に対する自分なりのとらえを見つめる。 ・自分の「おもてなし」観の変容の自覚化 ・「おもてなし」の行為と自分とのつながり	・ホテルオークラ東京の「おもてなし」に対する自分の考えや、今の時点の自分なりの「おもてなし」観について記述する。	・関連付ける ・因果関係をみる ・たとえる　　など

具体的な「おもてなし」の行為やその背景にある思いや願い、考え方にさらに目が向いてきた子どもたちに、ホテルオークラ東京における「あいさつの基本」を例に挙げ、その後、「荷物を持ったお客様への声掛け」「お客様が帰るときのあいさつ」について考えさせた。その際、選択肢を３つ挙げ、立場を明確にして、考えを交流できるようにした。ホテルオークラ東京の「あいさつの基本」は、「客とすれ違うときは、必ず立ち止まり、先に『いらっしゃいませ』と声を掛けてからおじぎをする」であった。（橋野・森田、p. 46）

表10は、挙げた選択肢と解答である。特に、「荷物を持ったお客様への声掛け」に関しては、子どもたちは、２つの立場に分かれて議論をした。正解は①だが、多くの子どもは②を選択した。その主な理由は、「②は客の立場に立ち、客に判断を委ねているので、客に寄り添っている。しかし、①は客の思いを無視して、勝手に持つという声掛けになっている。」であった。この理由は、これまでの追求で得た「『おもてなし』とは、相手の立場に立って行うもの」という考え方をもとにしている。①は、もてなす側の意志が表現された言葉である。ここでは、もてなす側の積極的なかかわりを求める方針であることを学んだ。

表10　ホテルオークラ東京の「おもてなし」に関するクイズ

荷物を持ったお客様への声掛け	お客様が帰るときのあいさつ
①お持ちいたします。（正解）	①さようなら。
②お持ちしましょうか。	②お疲れ様でした。
③持ちましょうか。	③お待ち申し上げております。（正解）

３－８　野球場の「おもてなし」に迫る（総合的な学習の時間）

表11は、修学旅行の訪問先である野球場の「おもてなし」に迫る過程の計画案である。

表11　野球場の「おもてなし」に迫る過程の計画案

学習活動・学習内容	設定する主な言語活動	活用する知識・技能、見方・考え方
○　野球場の「おもてなし」画像をもとに、もてなす側の思いや願い、見方･考え方に迫る。 ・表現された物や空間などの背景にある思いや願い、見方・考え方への迫り方	・提示された画像が「おもてなし」画像として選ばれた理由を分析し、語り合う。	・推論する　　・たとえる ・関連付ける
	・語り合いをもとに、「『おもてなし』界のカリスマに迫るコツ」を見いだしたり、もてなす側の思いや願い、見方・考え方に迫るコツについて、自分の言葉でまとめたりする。	・キーワード化する ・関連付ける　・たとえる ・ナンバリングしながら説明する ・絵や図、文章に表す　など

筆者は、前年度も修学旅行の引率をしており、その際の筆者が撮影した調査画像を提示し、筆者の「おもてなし」観について推論させた。そうすることで、同じ「おもてなし」の行為やそれによって創出された場や空間等を見ても、人や求めによって見方・感じ方が異なることに気付くことができるようにした。それとともに、修学旅行での調査活動をイメージしたり、画像を残す意味について実感したりできるようにした。

３－９　修学旅行の訪問場所の「おもてなし」について予想する（総合的な学習の時間）

表12は、修学旅行の訪問場所の「おもてなし」について予想する過程の計画案である。

表12　修学旅行の訪問場所の「おもてなし」について予想する過程の計画案

学習活動・学習内容	設定する主な言語活動	活用する知識・技能、見方・考え方
○　修学旅行の訪問場所の「おもてなし」で大切にされていることを予想する。 ・「おもてなし」を創出する人々の思いや願いなどの予想	・「遊園地の『おもてなし』で大切にしていることはズバリ！□である」「ホテルの『おもてなし』で大切にしていることはズバリ！□である」などを記述する。	・予想する ・推論する ・関連付ける など

修学旅行の訪問場所が「おもてなし」を行う上で大切にしていることを予想させておき、その予想が合っ

ているかどうかを、修学旅行の調査活動の中で確かめることができるようにした。

３－１０　修学旅行の訪問場所や身近な生活の中で調査を行い、分析する（特別活動・総合的な学習の時間）

表13は、修学旅行の訪問場所や身近な生活の中における「おもてなし」に迫る過程の計画案である。

表13　修学旅行の訪問場所や身近な生活の中における「おもてなし」に迫る過程の計画案

学習活動・学習内容	設定する主な言語活動	活用する知識・技能、見方・考え方
○　修学旅行の訪問場所で、調査活動を行う。 ・「おもてなし」が表現された人や物、空間 ・もてなされる側ともてなす側の視点	・訪問場所で見つけた「おもてなし」やその事実から感じたこと、気付きなどを記述するとともに、画像に残す。	・推論する
○　得た情報を分析する。 ・画像から読み取れる「おもてなし」観	・撮影した「おもてなし」画像から、読み取ることができることを、記述する。	・推論する　　・たとえる ・関連付ける
○　「おもてなし」の行為や創り出された空間や場所などの背景にあるものを見いだす ・「おもてなし」の一般性と個別性 ・物語性のある空間の創出 ・日常から非日常の世界へ誘う工夫 ・心身ともに癒しを与えるもの ・コミュニケーションの潤滑油になるもの ・置かれた立場や状況、年齢、性別などに応じたもの ・もてなされる側ともてなす側の双方向性のある関係 ・日常生活の中にも存在する「おもてなし」	・「おもてなし」をする上で大切にしなくてはならないキーワード化したものを付箋に記述し、班で分類する。	・キーワード化する　・分類する ・因果関係をみる　　・対比する ・一般性と個別性を見いだす　など
	・「おもてなし」は，もてなす側ともてなされる側のどちらの思いや願いを重視されて行われるのかについて語り合う。	・たとえる ・関連付ける ・因果関係をみる　など
	・語り合いをもとに，「『おもてなし』とはズバリ！□である」とその根拠を記述する。	・誰のどんな意見に影響を受けたか、見つめる　　・キーワード化する ・納得できたことや問題点を見いだす ・考えを図，グラフ、数字等に表す
	・「おもてなし」をする上で大切な思いや願い，見方・考え方などを付箋にキーワード化して記述し、「基本・中級・カリスマレベル」に，班で分類する。	・分類する ・比較する ・優先順位を考える など

修学旅行の訪問場所や身近な生活の中における「おもてなし」を調査し、それらを画像として残し、込められた思いや願い、見方・考え方について分析させた。そして、「おもてなし」の一般性と個別性を見いださせるとともに、「おもてなし」界の「カリスマ」になるには何が必要か探らせた。ここでいう「カリスマ」とは、一流ということで共通理解した。「日本の宿おもてなし検定」（日本の宿おもてなし検定公式ウェブサイト）があるが、自分たちなりに導き出した後に表14にある情報を提示し、プロの考えと自分たちの考えを比較できるようにした。そうすることで、プロの考えを鵜呑みにするのではなく、自分たちの追求と関連付けて解釈したり、同様な考えを導き出している自分や自分たちに自信をもち、自己肯定感を高めたりできるようにしたいと考えた。

表14　「日本の宿おもてなし検定」のレベル

レベル	レベルの説明
スタート	旅館の仕事を始めたばかりの新人のレベル
初級	基本中の基本ともいうべきレベル
中級	お客様のご満足と明確なプラス評価をいただけるレベル
上級	お客様に「感動」していただける「カリスマ」レベル

図９を見ると、「カリスマ」レベルに必要なものは、「１位サプライズ、２位思い出の残し方の提案、３位様々な状況に合った対応の仕方、４位時間を忘れるパフォーマンス、５位いつもとは違う気分にさせること」とまとめ、その理由と班員の経験した事実やそこで感じたことをもとに具体例を挙げた。そして、「意志・経験・努力が必要なものがカリスマ中のカリスマ」と結論付けた。

図９　Ｂ児の班の表現物

３－１１　「カリスマ」レベルに入る「おもてなし」について検討する（総合的な学習の時間）

班の分析後には、全体で、「カリスマ」レベルに入る「おもてなし」について検討する場で授業公開を行った。図10は、羅生門的接近により、参観者から意見を得たい視点を伝える資料である。

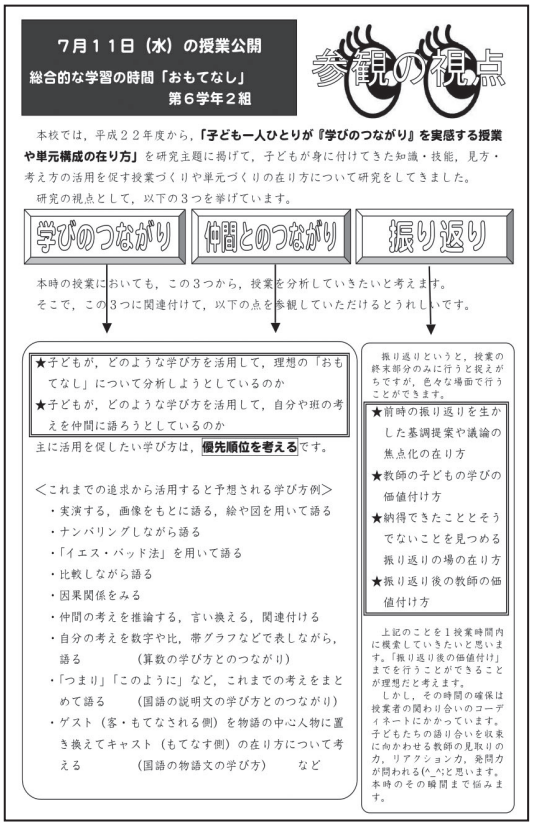
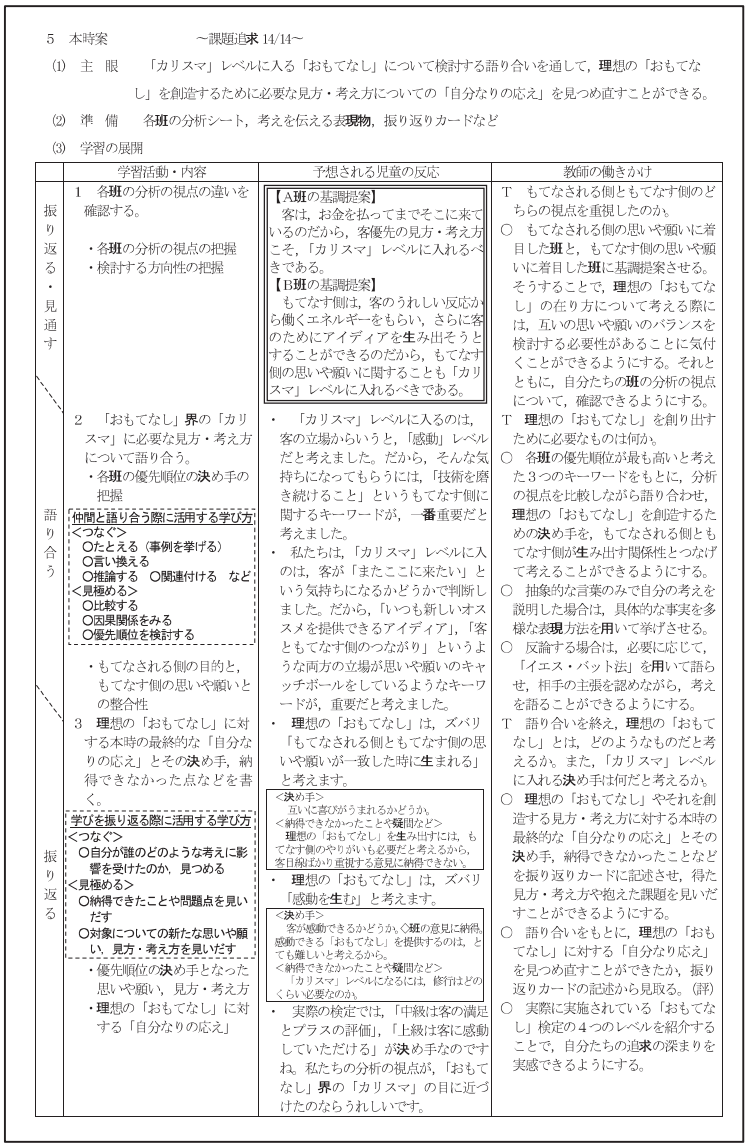


図10　参観の視点を共有するための資料



５　本時案　　～課題追求 14/14～

⑴　主　眼　　「カリスマ」レベルに入る「おもてなし」について検討する語り合いを通して，理想の「おもてなし」を創造するために必要な見方・考え方についての「自分なりの応え」を見つめ直すことができる。

⑵　準　備　　各班の分析シート，考えを伝える表現物，振り返りカードなど

⑶　学習の展開

	学習活動・内容	予想される児童の反応	教師の働きかけ
振り返る・見通す	１　各班の分析の視点の違いを確認する。 ・各班の分析の視点の把握 ・検討する方向性の把握	【A班の基調提案】 客は，お金を払ってまでそこに来ているのだから，客優先の見方・考え方こそ，「カリスマ」レベルに入れるべきである。 【B班の基調提案】 もてなす側は，客のうれしい反応から働くエネルギーをもらい，さらに客のためにアイディアを生み出そうとすることができるのだから，もてなす側の思いや願いに関することも「カリスマ」レベルに入れるべきである。	T　もてなされる側ともてなす側のどちらの視点を重視したのか。 ○　もてなされる側の思いや願いに着目した班と，もてなす側の思いや願いに着目した班に基調提案させる。そうすることで，理想の「おもてなし」の在り方について考える際には，互いの思いや願いのバランスを検討する必要性があることに気付くことができるようにする。それとともに，自分たちの班の分析の視点について，確認できるようにする。
語り合う	２　「おもてなし」界の「カリスマ」に必要な見方・考え方について語り合う。 ・各班の優先順位の決め手の把握 仲間と語り合う際に活用する学び方 ＜つなぐ＞ ○たとえる（事例を挙げる） ○言い換える ○推論する　○関連付ける　など ＜見極める＞ ○比較する ○因果関係をみる ○優先順位を検討する ・もてなされる側の目的と，もてなす側の思いや願いとの整合性	・「カリスマ」レベルに入るのは，客の立場からいうと，「感動」レベルだと考えました。だから，そんな気持ちになってもらうには，「技術を磨き続けること」というもてなす側に関するキーワードが，一番重要だと考えました。 ・私たちは，「カリスマ」レベルに入のは，客が「またここに来たい」という気持ちになるかどうかで判断しました。だから，「いつも新しいオススメを提供できるアイディア」，「客ともてなす側のつながり」というような両方の立場が思いや願いのキャッチボールをしているようなキーワードが，重要だと考えました。	T　理想の「おもてなし」を創り出すために必要なものは何か。 ○　各班の優先順位が最も高いと考えた３つのキーワードをもとに，分析の視点を比較しながら語り合わせ，理想の「おもてなし」を創造するための決め手を，もてなされる側ともてなす側が生み出す関係性とつなげて考えることができるようにする。 ○　抽象的な言葉のみで自分の考えを説明した場合は，具体的な事実を多様な表現方法を用いて挙げさせる。 ○　反論する場合は，必要に応じて，「イエス・バット法」を用いて語らせ，相手の主張を認めながら，考えを語ることができるようにする。
振り返る	３　理想の「おもてなし」に対する本時の最終的な「自分なりの応え」とその決め手，納得できなかった点などを書く。 学びを振り返る際に活用する学び方 ＜つなぐ＞ ○自分が誰のどのような考えに影響を受けたのか，見つめる ＜見極める＞ ○納得できたことや問題点を見いだす ○対象についての新たな思いや願い，見方・考え方を見いだす ・優先順位の決め手となった思いや願い，見方・考え方 ・理想の「おもてなし」に対する「自分なりの応え」	・理想の「おもてなし」は，ズバリ「もてなされる側ともてなす側の思いや願いが一致した時に生まれる」と考えます。 ＜決め手＞ 互いに喜びがうまれるかどうか。 ＜納得できなかったことや疑問など＞ 理想の「おもてなし」を生み出すには，もてなす側のやりがいも必要だと考えるから，客目線ばかり重視する意見に納得できない。 ・理想の「おもてなし」は，ズバリ「感動を生む」と考えます。 ＜決め手＞ 客が感動できるかどうか。＜班の意見に納得，感動できる「おもてなし」を提供するのは，とても難しいと考えるから。 ＜納得できなかったことや疑問など＞ 「カリスマ」レベルになるには，修行はどのくらい必要なのか。 ・実際の検定では，「中級は客の満足とプラスの評価」，「上級は客に感動していただける」が決め手なのですね。私たちの分析の視点が，「おもてなし」界の「カリスマ」の目に近づけたのならうれしいです。	T　もてなされる側ともてなす側のどちらの視点を重視したのか。 ○　もてなされる側の思いや願いに着目した班と，もてなす側の思いや願いに着目した班に基調提案させる。そうすることで，理想の「おもてなし」の在り方について考える際には，互いの思いや願いのバランスを検討する必要性があることに気付くことができるようにする。それとともに，自分たちの班の分析の視点について，確認できるようにする。 T　理想の「おもてなし」を創り出すために必要なものは何か。 ○　各班の優先順位が最も高いと考えた３つのキーワードをもとに，分析の視点を比較しながら語り合わせ，理想の「おもてなし」を創造するための決め手を，もてなされる側ともてなす側が生み出す関係性とつなげて考えることができるようにする。 ○　抽象的な言葉のみで自分の考えを説明した場合は，具体的な事実を多様な表現方法を用いて挙げさせる。 ○　反論する場合は，必要に応じて，「イエス・バット法」を用いて語らせ，相手の主張を認めながら，考えを語ることができるようにする。 T　語り合いを終え，理想の「おもてなし」とは，どのようなものだと考えるか。また，「カリスマ」レベルに入れる決め手は何だと考えるか。 ○　理想の「おもてなし」やそれを創造する見方・考え方に対する本時の最終的な「自分なりの応え」とその決め手，納得できなかったことなどを振り返りカードに記述させ，得た見方・考え方や抱えた課題を見いだすことができるようにする。 ○　語り合いをもとに，理想の「おもてなし」に対する「自分なり応え」を見つめ直すことができたか，振り返りカードの記述から見取る。（評） ○　実際に実施されている「おもてなし」検定の４つのレベルを紹介することで，自分たちの追求の深まりを実感できるようにする。

図11　本時案

３－１１－１　語り合いと授業者の見取り

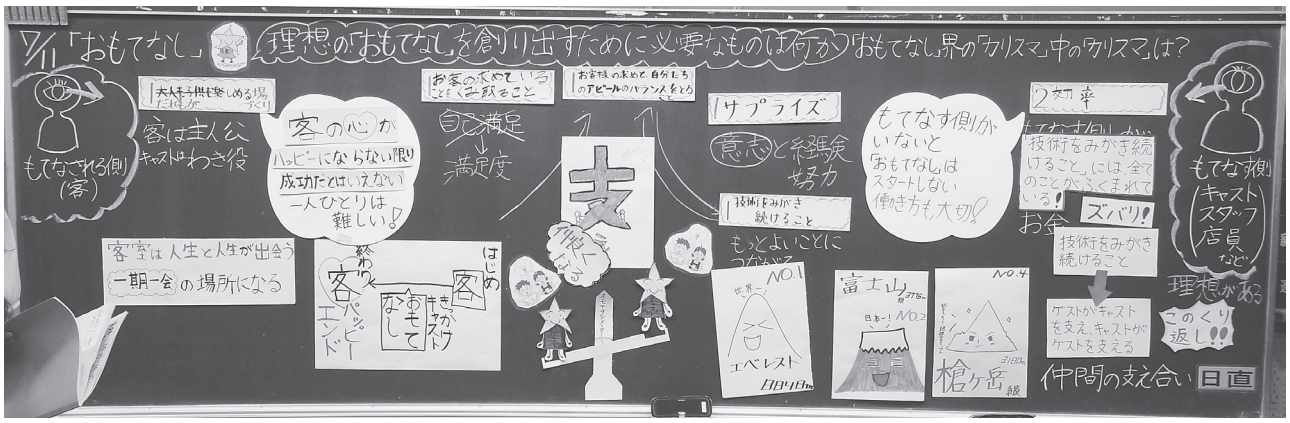


図12　本時に子どもたちと創り出した板書

図12は、本時の板書である。これを見ると、子どもたちは、考えを伝えるために必要な表現物を用いたことが分かる。しかも、自分の立場を明らかにし、黒板のどの辺りにそれを張りながら説明すればよいのかも考えながら、語ったことが分かる。語り合いの最初には、H児とＩ児が基調提案をした。H児は、「客の心がハッピーにならない限り成功とは言えない。一人ひとりは難しい。」という考えを基調提案で述べた。

ぼくたち２班は、客の心をどれだけ動かすかということで分析しました。つまり，客の心を動かす度が高いものが上位に入っています。客の心がハッピーにならない限り「おもてなし」は成功だとは言えないと考えます。だから，「カリスマ」レベルの１位は「誰もが楽しめる場づくり」と考えました。この画像を見てください。（調査で得た画像を電子黒板を活用してみんなに提示する）ジェットコースターに乗る前のこのテンションの高さを。だから，ぼくは，「カリスマ」レベルは，ヤッホーレベルと表現しています。前、道徳で、「加賀屋の『おもてなし』」について学びましたよね。その時、「客室は人生と人生が出会う一期一会の場所になる」という加賀屋の流儀を知りましたよね。人生と人生ですよ。「おもてなし」は，人の人生まで変えてしまうということを知り、ぼくは、「あっ、あれと同じだ。」と思いました。国語で学んだことです。何だと思いますか。この図を見てください。客は、物語の中心人物だと考えました。ぼくは、「おもてなし」とは、ズバリ！「客の物語づくり」と例えられると思いました。もてなす側の提供する「おもてなし」が、ハッピーエンドの結末が生まれる「きっかけ」になるということが考えられます。だから、客の心がハッピーに動く度が高いものを選んだと言い換えることもできるとぼくは思います。（他の班とのやりとりは略。）

この基調提案をみると、道徳で得た見方・考え方や国語科の物語の学び方を関連付けるとともに、関連付けた理由を説明するために、「キーワードにまとめる・たとえる・言い換える・問いかける」などの学び方を活用したことが分かる。それに対し、Ｉ児は以下のように語った。

確かに、客を主人公にしないといけませんよね。その点は、みんな納得できると思います。でも、みなさん考えてみてください。もてなす側がいないと、「おもてなし」は始まりませんよね。そう考えて、私たちは、「カリスマ」レベルの２番目に「効率」を入れています。「効率」のようなもてなす側目線のキーワードは少なかったので，なぜ「効率」を入れたのかについて説明します。（略）

この基調提案をみると、H児のいる２班の考えに反論しながら、自分たちの考えを主張するために、「イエス・バッド法を用いて語る・問いかける」などの学び方を活用していることが分かる。

これらの基調提案をもとに、自分がもてなされる側ともてなす側のどちらの視点を重視して考えを導き出したのか、自覚できるようにするとともに、議論を焦点化した。その後、子どもたちは、以下の学び方を意識し、仲間を納得させるための表現方法や内容を模索していると、筆者は見取った。

・実演する　・画像をもとに語る　・絵や図や用いて語る　・ナンバリングしながら語る　・イエス、バッド法を用いて語る
・比較しながら語る　・仲間の考えを推論する、言い換える、関連付ける　・因果関係をみる
・考えを数字や比、帯グラフなどで表しながら語る　・「つまり」「このように」を用いて、これまでの考えをまとめて語る
・もてなされる側を物語の中心人物に置き換え、もてなす側の在り方について考える　など

３－１１－２　参観者が見取った学び方

表15は、授業評価シートの「これまで身に付けてきたどのような学び方や学習内容等を活用しているように見取ることができましたか」という質問項目に対する参観者の記述内容である。

表15　参観者が見取った質問事項１にかかわる学び方

説明の仕方	他教科の学び方・学習内容	思考・表現の仕方
・指示棒の使い方　・経験をもとにたとえる　・問いかける語尾 ・「ですよね？」という確認の仕方　・ナンバリングして話す ・自分の考えを話す流れ　・結論や根拠を明確にして自分の考えを語る力 ・様々な教科で学んだことをもとに、自分の思いや考えを自分なりに述べる力 ・相手に伝えよう、納得してもらおうとする強い意志 ・電子黒板の操作　・吹き出し等の活用　・図の活用 ・具体と抽象を混ぜた語り　・時間力　・語る力　・考える力 ・これまでの学びの履歴を活用する力　・班活動における意見の共有の仕方	○道徳 ・「客室は人生と人生が出会う」等の名言 ○国語科 ・物語文の中心人物や主題についてのとらえ方 ○他教科の学びを振り返りながら意見を伝える力	・関連付ける ・キーワード化する ・因果関係をみる ・比較する ・意見の共通点や相違点を把握する

表16は、授業評価シートの「これまで身に付けてきたどのような学び方や語り合う際のコツ等を活用しているように見取ることができましたか」という質問項目に対する参観者の記述内容である。

表16　参観者が見取った質問事項２にかかわる学び方

双方向なかかわり合いを生む学び方	分かりやすく考えを伝えるための学び方	論理的に伝え合えるための学び方	互恵的で深いかかわり合いを生む学び方
・きく力（聴く・訊く） ・相手の目を見て話す、聞く ・あいづちをうったり、うなずいたりして反応する ・友達の思いを聞き取り、目で表情で言葉で反応する ・自他の考えを比較しながら聴く力 ・「～ですよね」がパターン化にならず､相手の反応をしっかりと確認しながら話す力	・伝える相手が理解しやすい表現物や表現方法の選択 ・写真、フィリップ等の提示物を選択して利用する力 ・相手へ確認しながらの語り ・語り言葉だけでなく視覚にも訴える力 ・視覚からもイメージできる説明の仕方 ・黒板に提示物をはりながら説明する力	・プレゼンテーションの技能（問いかけ、結論、理由） ・国語科の説明文の組み立て方、物語文の語り口	・他の人の意見を取り入れたり、対比したりしながら説明する力 ・イエス、バッド法 ・相手の考えを認めた上での自分の意見表明 ・自分を他者や周りに合わせる力 ・全体に向けて意見を語る際の技術（全体を見る、問う、同意を求める） ・自分の意見が授業の流れの中で、どこで位置付けられるのか考えながら発言する力

まとめ

どの課題解決の場面においても、活用している身に付けてきた学習内容や追求方法、表現方法、考えなどや、それらを活用するよさを実感させるようにしていった。そのため、児童は、課題解決の場面に応じて、

それらの中から有効だと考えたものを選んで活用できるようになってきたと感じた。

授業評価シートに見ると、校内外にかかわらず、参観者は、多様な学び方を見取っており、見取りの視点を提示しておくことの重要性を実感した。「学びのつながり」を研究テーマに掲げ、研修を積み重ねてきた同僚からの見取りは、多少の表現の違いはあるが、ほぼ授業者の意図と一致し、校内研修を行う目的、視点や方法等を共有できていることや同僚性の高まりを実感した。同僚性の高まりは、カリキュラム開発には欠かせない。また、ある参観者のシートには、「子どもの発言から、教師が子どもにこれまで意識させてきたことが感じられた。ふだんから各教科等のつながりを教師が意識していないと、このような発表や発言を子どもはしない。」と記述されており、日々の授業の中で、学びの深化・活性化を願い、子どもの発言や記述等から「つながり」を見て取れるように、子どもたちの表現力に磨きをかけてきた成果を実感できた。さらに、その記述や「子どもをやる気にさせる先生のハートと技術が見取れた。」という記述から、「子どものために成長し続けたい」「カリキュラムを更新し続けたい」と教師が思うためには、「つながり」や授業者の意図をくみ取りながら授業づくりに真摯に向き合う同士の存在や支えが、大きな力になることも実感した。

注

1）2014年３月まで、筆者は、山口県下松市立公集小学校に教諭として勤務する。この実践は、第６学年担任時、山口県教育委員会からの委嘱の業務、教育力向上指導員として行ったものである。

2）荒木（2001）によると、「総合的な学習では、アトキン（1975）の述べる羅生門的接近が中心となる授業構成法や評価法が求められる。羅生門的接近とは、一つの事実や事件が立場の相違によって違って見えるという認識の相対性を扱った芥川龍之介の小説『藪の中』に題材を求めた黒沢明監督のベニス国際映画際グランプリ作品『羅生門』にちなんだものである。」（p.20）

引用・参考文献

安彦忠彦：「21世紀型授業づくり81　カリキュラム開発で進める学校改革」，明治図書，2003.

荒木紀幸：「総合的な学習で育てる知識・能力・態度～教育心理学による解明～」明治図書，p.20，2001.

加賀屋公式ホームページ：「おもてなし」http://www.kagaya.co.jp/omotenashi/

都留覚・藤上真弓：「プロ教師に学ぶ総合的な学習の時間授業の基礎技術」，東洋館出版社，2012.

ディズニーリゾート・キャンパス：「東京ディズニーリゾート学校向けプログラム」キャストが語る「働く楽しさ」カストーディアルキャスト，http://www.tokyodisneyresort.co.jp/campus/work/cast04.html

奈須正裕、諸富祥彦：「答えなき時代を生き抜く子どもの育成」，図書文化社，p.44，p.113，p.185，2011.

日本の宿おもてなし検定・公式ウェブサイト：http://www.omotenashi-kentei.jp

橋野宏之・森田聡子：『日経おとなのOFF特別編集　日経ホームマガジン　美しい日本語と正しい敬語が身に付く本』「ホテルオークラに学ぶあいさつ，お礼，苦情対応で使うスマート敬語実践講座」，日経BP社，pp.44～49，2012.

広田千悦子：「おうちで楽しむにほんのもてなし」，技術評論社，2008.

細井勝：「加賀屋の流儀～極上のおもてなしとは～」，PHP研究所，2006.

文部科学省：「小学校学習指導要領総則」，東洋館出版社，p.23，　p.45，2008.

文部科学省：「心のノート小学校５・６年平成21年度改訂版」，廣済堂あかつき株式会社，pp.92～93,2009.

文部科学省：「小学校学習指導要領解説道徳編」，東洋館出版社，p.30，pp71～72，2008.

文部科学省：「小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」，東洋館出版社，2008.

文部科学省：「小学校学習指導要領解説特別活動編」，東洋館出版社，2008.

リクルートワークス編集部，千葉望：「おもてなしの源流」，英治出版，2007.